

令和5年度 学校における働き方改革推進モデル校 実践報告 中山小学校

学校の概要

- 学校教育目標「自分と人と物を大切にする子供の育成」
- 学校経営計画(働き方改革)「働きやすい職場環境づくりに努める」
- 児童数648名(25学級:特別支援学級等含む)



令和5年度に解決を目指した主な課題

◆プランの達成目標の実績(令和4年度)

項目	令和4年度実績			
	全体	校長・教頭 主幹教諭	教諭等	事務 職員等
目標1 年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合:100%	42%	0%	30%	100%
目標2 連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間以下の教職員の割合:100%	88%	66%	76%	100%
目標3 年次有給休暇の平均取得日数:16日以上	16日	11日	16日	21日

◆校内アンケート結果より(令和5年4月実施)

質問項目	肯定的な 回答の割合
今の働き方に満足している	38.5%
仕事と生活の調和がとれていますか	30.8%

- 効率的かつ計画的に業務を遂行できるような、環境づくりが必要である。
- 仕事の時間だけでなく、私生活の時間を確保できるような環境づくりが必要である。

主な取組と成果

Googleアプリの活用

【取組】

朝の欠席連絡の共有や会議録の共有としてGoogleアプリ(クラスルーム・スプレッドシート)を活用することで、効率的で迅速な情報共有を図った。

【成果】

◆校内アンケート結果より(令和6年1月実施)

質問項目	肯定的な 回答の割合
保護者との事務連絡等において、クラスルームやメールシステムを活用することで、時間の縮減を図ることができましたか。	76.2%

朝の欠席連絡については、取組の実施により概ね時間短縮につながったと考えられる。この取組には、スクールサポートスタッフの尽力も大きい。また、会議録についてもスプレッドシートを活用することで、情報共有や提案が広く迅速に行えるようになった。

Well-being Dayの実施

【取組】

授業時数の見直しを行い、月1回午前中のみ授業を行い、午後の時間を教職員が有効活用できる日を設定した。

【成果】

Well-being Dayの設定を行うことで、有給休暇を取得しやすくなったと感じている教職員の割合が高まった。

◆校内アンケート結果より(令和6年1月実施:全28問)

質問項目	肯定的な回答の割合
年休を取得しやすくなったり退勤時刻が早まったりしていると実感していますか。	81.0%
気兼ねなく帰れる雰囲気がある	71.4%
今の働き方に満足していますか。	47.6%
仕事と生活の調和がとれていますか。	47.6%

令和5年度の取組の評価

◆プランの達成目標に対する実績より

項目	R5実績	R4実績との比較
目標1	44%	+2P
目標2	72%	-16P
目標3	16日	±0日

○ 目標1「年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合:100%」については、昨年度と比較して数値が少し上昇した。

○ 目標2「連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間以下の教職員の割合:100%」については、昨年度と比較して数値が下がった。

○ 目標3「年次有給休暇の平均取得日数:16日以上」については、昨年度と同様であった。

◆校内アンケート結果等より

項目	肯定的な回答の割合等	
	R5.4月	R6.1月
今の働き方に満足している	38.5%	47.6%
仕事と生活の調和がとれていますか	30.8%	47.6%
子どもと向き合う時間を確保できている	53.8%	66.7%
時間を要する業務への対策ができている	42.3%	61.9%
教職員が意見を出し合えることができる	75.0%	81.0%

○ 「子どもと向き合う時間を確保できている」と答えた教職員が12.9ポイント増加した。

○ 「時間を要する業務への対策ができている」と答えた教職員が19.6ポイント増加した。

○ 「教職員が意見を出し合えることができる」と答えた教職員が8割を超えた。

◆まとめ

働き方の満足度や仕事と生活の調和についての数値が、4月に比べて上昇しているもののまだまだ向上の余地がある。教職員が意見を出し合える職場であればあるほど、よりよい職場環境にもつながると考えられることから、教職員一人一人の負担感・多忙感に寄り添いながら、持続可能な働き方を模索していき、働きやすい職場環境づくりを進める。

次年度の取組の方向性

引き続き、Well-being Dayの取組を実施したり、ICTを効果的に活用した業務改善を行ったりしながら、働き方の満足度を上げ、仕事と生活の調和がとれた働き方を推進していく。また、校務の平準化を目指すこと、計画的に業務を遂行できるようなシステムを構築することについても、着手していく。